

平成22年度第3回富士見市生涯学習推進市民懇談会会議録

日時 平成22年9月1日(水) 10:00~12:00  
場所 中央図書館 集会室  
出席者 ○市民懇談会委員

委員長	副委員長				
小塚	荻島	岩田	岡本	桐生	佐藤
○	○	○	○	○	○
清水	田中	鳥澤	森本	横田	我彦
○	○		○		○

○事務局

【協働推進課】山岸課長、吉岡副課長、吉野

【生涯学習課】永瀬課長、佐藤、高見

1. 開会あいさつ 小塚委員長

2. 議題 議事進行 小塚委員長

(1) 報告事項

①起草委員会について

起草委員会の開催状況等について、事務局より報告を行った。

②その他

第5次基本構想 前期基本計画(案)の現状について、資料に基づき、事務局より報告を行った。

委員) 第3章大柱4(2)スポーツを楽しめる場の充実の指標である体育館の利用者数について、平成22年度の現状値と比べて平成25年度の目標値の数値が減少しているのはなぜか。

事務局) 確認して報告する。

委員) 第3章大柱3(1)文化創造事業の推進について、指標が設定されていないのはなぜか。

事務局) 市民文化会館の利用者を指標とすることも検討したが、既にほぼフル稼働の状態であるため、これ以上の利用者の増加を目標値とすることはそぐわないと判断し指標の設定には至らなかった。また、条例の制定等の数値化の困難な事業もあり、全ての事業に指標を設定しているわけではない。

## (2) 協議事項

次期生涯学習推進基本計画の提言について

「生涯学習推進基本計画提言書（案）」について、森本委員より説明を行った。

委員長) 項目ごとに協議を進めることとしたいが、「はじめに」の部分について意見があればお願いしたい。

特に意見がないようであれば「背景」についてはいかがか。

委員) 生涯学習という言葉・考えが、市民の意識に定着していないと遊離してしまい計画が馴染んでいかない。一人ひとりがやりたいことを実現することが生涯学習であると追加するとわかりやすく親しみやすくなる。また、現在は不況の時代なので、ふるさと帰りも多くなり、安く楽しく効率的に生涯学習を行ういいチャンスであるともいえる。そのためには学習情報が重要になり、様々な情報を得ると発想が広がり活動も広がる。そのあたりを基本に考えると市民が生涯学習を身近に感じる。

委員) 生涯学習は個人の生活を豊かにするものと当初位置付けられていたし、国は社会教育から生涯学習に傾斜して社会教育施設である公民館への補助金等もなくなっていった。しかし、経済が右肩上がりの時代でなくなり、少子高齢化、所得格差の拡大、終身雇用制の崩壊という現代的な課題により、自分が何かをやりたいと思っても出来ないような状況が生まれている。それを解決するためには、現代的課題を生涯学習に取り入れざるを得ない状況になっている。自分たちのことだけでよいのであればコミセンや交流センターが生涯学習の場を保障すれば公民館はいらないとなってしまう。現実はどうはいかないので、そのあたりをどう表現するか。

委員) 基本理念に関わるような部分でもある。生涯学習とは、一人ひとりがやりたいことを楽しむというような身近な活動を生きがいとするものでもあるが、いつの時代も何らかの阻害される状況が生まれる。人が幸せに生きる土台・環境を整えることに生涯学習の意味があり、社会の幸せにつながるという説明を加えると、「生涯学習とは？」がわかりやすく説明できると思う。

委員長) 第 5 次基本構想では、地域が主役のまちづくりを掲げており、地域とは市民・町会等を示すと考えられるが、富士見市の実態として市外の就労者が多く地域活動に支障をきたしている。基本構想を実現するためには、生涯学習がいよいよ重要な時代になったともいえるので、その様な点も背景に入れてもらえるとよい。

続いて、「理念」について意見をお願いしたい。なお、今回の案は内容を変えたということではなく、わかりやすく整理し直したものである。

特に意見がないようであれば、「目標」について、意見をお願いしたい。

特に意見がないようであれば、「内容」について、意見をお願いしたい。

委員) 1 - (1) の中で、「教育・学習を高める」と表現しているが、質と量を充実させるということか。

委員) 例えば、子どもたちが自由に集まれるスペースを整備するということもあるし、子育てサークルが質的にも量的にも充実していれば子育てが支えられる等の内容である。項目なので説明が情緒的にならない括りにしたことから、わかりづらくなってしまったのかもしれない。充実させる等、表現を検討したい。

委員) 1 - (5) 市民の自主的な学習活動を支援するという項目の中で、出前講座とコミュニティ大学をあげているが、市民大学を加えてもよいのではないか。市民大学は鶴瀬公民館で行われているが、もっと幅広く各公民館に枝分かれして増えてもよいと考えるし、市民大学の位置付けは富士見市の中でも大きく NPO にもなり、今後の活躍が期待される場所である。

委員) たまたま懇談会等の中で触れられておらず記載されていないということもあるし、これから実践してもらいたい事業を掲げるとさらに提言としてよくなるということもあるので、事業等の提案があればお願いしたい。

委員) 学校に制約があることは承知しているが、大人のための小学校教育として、今はこういう教育を行っている等、先生から勉強ができるという。学校教育の枠を取り外し、そのような市民と学校のつながりが増えるとよいと考える。

委員) 図書館について、これからの情報化社会の中では、本を図書館で借りる時代から電子書籍という手段に変わることも想定されるので、そのあたりの表現が必要ではないか。図書館協議会では、現在ある書籍の電子書籍化をボランティアで行うことも検討し始めており、そうすれば図書館に来なくてもインターネットで閲覧できることから交通弱者の方との接点が増えることになる。また、議会でも図書館の公共無線 LAN の話が出ていたが、IT 関係の変化を意識する必要がある。

事務局) 図書館の公共無線 LAN については議会での質問もあり、現在、調査を進めている。また、電子書籍化は今後の課題であり、入間地区の公共図書館の協議会において専門家を招いて勉強会を始めている。学習情報や施設整備とも関連するので、項目として入れることは大事かと考える。なお、基本構想の前期計画の中でも電子書籍という表現は使われており、生涯学習の計画の中にも対応する表現があってもよいと考える。

委員長) 市民憲章と4つの都市宣言のうち、非核・平和については提言書の中で触れられていない。平和都市宣言の内容は家庭の平和から始まっており、かけ離れている問題ではないので載せてもよいと考える。

委員) 計画については、チェックし振り返ることが必要である。指標も一つのチェックであり、現在の実態を基準としてサークル数や利用者数等を年次的に見ていくとよいのではないか。サークルについては、1,000 近くの団体があり、毎回報告書も出ているので、その数字をまとめればよい。他にも学級等があるので、いくつかの項目を統計すれば推移がわかる。また、利用者懇談会はあるものの年数回しかなく、サークル利用者団体が集まる場がほとんどない。生涯学習を支えているサークルのリーダー間の交流があれば話し合いが生まれるし、お互いに伸びると考える。

事務局) 生涯学習の計画で指標を入れるかは何ともいえないが、計画に目標値を入れるという考え方は定着してきているし、進捗状況調査は必要である。また、計画の目標が立派でも抽象的では成果が図れないし、実際には担当課が行う事業の中身・成果が重要であり、その進行状況の確認が必要となる。ただし、教育や文化等の意識に関わる面は評価がしづらいところでもある。また、学習成果をみんなのものにするという項目では、たとえば地域自治シンポジウムのような場で色々な団体・人が集まり、意見交換や交流ができればよいと考える。

委員) 鶴瀬コミセンでは、利用者連絡会の人が集まって毎年納涼会が行われており、そこには南畑公民館等の利用者も加わって、お茶やお酒をいただいている。その様な会議よりもやわらかい場で、気軽に話し合える機会があれば交流も進み、情報交換もできる。

委員) 鶴瀬学級（高齢者学級）に関わっているが、現在は定員を超えてしまっている状況であり、他の公民館の学級に余裕があれば越境入学をお願いしている状況である。その様なことを話し合えて

情報交換が可能な場が必要である。

委員) 鶴瀬や水谷公民館の館区が広すぎるのが影響している。どこの施設がカバーするのか、公運審の答申でもコミセン・交流センターを加えた 7 つの館区を提案したが、そうしないと解決しない問題である。

委員) 全体的なこととして、地域では人間関係が希薄になり混乱をきたしている。そこで、地域や人の絆を大切にするという文言をどこかに入れていただきたい。

委員) 1 - (4) 市民間のコミュニケーションを豊かにするという項目あたりに入ってくる内容かと思う。人間関係の希薄という部分は生涯学習の進行を左右するところであり、世代間交流の事業として含めている。具体的な文言を載せる方向で項目立てしているが、表現等を検討したい。

委員長) スポーツがこれから重要だと考える。市外就労している方が地域に居るのは、休日か平日の夜間となるが、その様な方でもスポーツは取り組みやすく、チームも作るし、子どもとも関係してくる。私の住んでいる地域で少年サッカーを指導している方がいるが、サッカーだけではなく、子どもと一緒に地域の祭りを手伝ったり、遠征には電車を利用して社会見学を兼ねたりという活動を行っている。スポーツを通じての世代間交流にもなるし、子どもの育つ姿を見て親も勉強になる。また、市職員も地域に積極的に関わるべきと考えるが、一方で職員数も減少し負担が増す中で参加を促してよいのか、指定管理者制度を導入する流れもあり難しいところである。

委員) 防犯・防災についても計画で触れることが必要ではないか。

委員) 平和や安心安全については根底に関わる問題であり、2 - (4) の中にまとめて文言を入れる方向で進めたい。

委員) 生涯学習は全てに関わるものなので、一言二言の文言を盛り込む方向でよいと考える。

委員) 2 - (1) の中の「PR して市外の人を引き込む」について、先日、TV 番組で富士見市が取り上げられ、TV を見た人が水子貝塚資料館等に大勢集まった。市内には他にも良いところが沢山あるので、情報を出して PR するとよい。

事務局) 撮影現場として使ってもらえるよう埼玉県にロケーション場を届け出る事業があり、キラリふじみ等も届けられている。

委員) プレスリリースとして、マスコミに情報を送ると登場する機会が多くなる。地方では身近な題材が取り上げられることも多く、人材バンクのお茶摘みにもケーブルTVが取材に来ていた。

委員長) 部屋の時間貸しについても懇談会等で意見が出ていたが、施設利用に関わる大きな問題なので手続きの簡略化の問題と併せて改善をお願いしたく、提言に含めていただきたい。

「おわりに」に関しては、本日の議論と最終的な提言書(案)を踏まえて起草させていただくこととしたい。

なお、今月15日に起草委員会を予定しているので、提言書(案)がまとまれば、次回の懇談会の前に各委員に送付したいと考えているのでよろしくをお願いしたい。

### (3) その他

#### ・提言書(案)について

事務局) 提言書(案)に対する意見等があれば9月8日までに様式や提出方法は様々な方法で構わないので、事務局に提出していただきたい。それらの意見を起草委員会に示して協議したいと考えているので、よろしくをお願いしたい。

#### ・次回の日程

平成22年9月24日(金) 午前10:00～  
中央図書館 集会室で開催

### 3. 閉会あいさつ 萩島副委員長

- 資料
- ・第5次基本構想 前期基本計画(案)【第3章】
  - ・第5次富士見市基本構想(案) 地域説明会のご案内
  - ・生涯学習推進基本計画提言書(案)